

應心記事

内閣文庫

30

内閣文庫	和書
函架	冊架
151	30
5	15875

和書門類	一五八七五
函架	二〇三
冊架	一四
六冊	

記録三十一

内閣文庫	番號	和	15875
	冊數	5	(1)
	函號	151	30



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



慶應元元丑年四月初旬櫻田邊に投文有之由右字

城西の隠士某 徳川家を憂ひ為す忠告せんとする 然れども

其任にあらず閣老も亦下問を不好忠諫必納せられざるを
量り書を道路に投して衆人に示し觀る者異くハ之を閣老

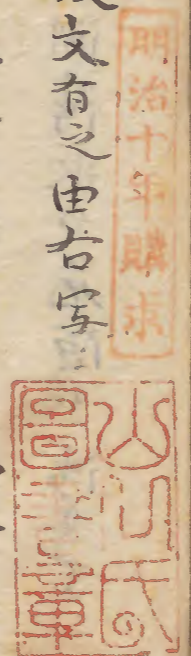
に告げて 幕府の危難を救はんを

閣老失職 失策挙て數ふ盈かりきと 雖就中失策の甚



堂上一送承以來未止し事其他猶あり爰に畧を
西閣老上言して 奏せしむ一會業を東下して

柳近未 幕府衰弱人心不和以上騷擾の根元也



大樹公降幼年より天下を知りしめし政令閣老の如き
を以て 御成権立難き折柄外夷頻りに来舶し和親交
易 幕府許容し人心動揺物價沸騰を以時を臨て
此處に宋し 幕府を倒し自立の志ある者或は自己
の利潤を大にせんと量りて 隠謀あるとの尊攘を名とし
て 幕府の罪を鳴らし

天朝の威を假りて無謀の兵を起さんとす 名義正し
ふ以て其実 奸謀なり 天下の危き事黒卵の如く殆三百
年の政令地の福らんとす其間閣老失職失政多かり幸に
大樹公希世の御尊徳まゝして深淵薄氷の危険を涉りて

不思議の今日の勢を得させしめ

幕府再振起弥増盛大なるとし 愚思へらく大なる哉開國
大なる哉航海富國強兵是より起る機會失ふべからず
神祖以方中興の御鴻業

大樹公の御尊徳仰ぐ至く尊ぶべし然るに少量頑固
の徒或は奸人お鎖港攘夷を口実として 天下を横行し
自滅を招くを猶正義と称す 愚賊お以て 悉く止む
奸賊隙を伺ふ宣ま

天朝を遵奉し列藩を威服せしめ浩然と御鴻業を可
為立一大切要の時執力髪を握り 哺を吐き 三尺の劔を執

て天下を平治を(き)最大変の時、當り百年因循に出こ
機會を失ふ莫多し一恭勤交代妻子出府復古の由所置
に於てハ決して失策よあふて然りと雖不服の国し有
れ者閣老其莫を貫徹す能はざるん、従ふハ許し皆
く者ハ討逐し一時勢斯の如し京師を動かすの由も
あふて送米ハ猶増加し崇尊を尽せし天下平治人心
服従して后所置ハ時宜ハ據るへし今哉

逆鱗を従し尊王を解き人心不服を招くハ秋はあらず
會衆東下の如き、京師を空虚にすして災い引入る、
て乳兒といふとも頭を病し、歎息為さ、
ならん

諸侯の警衛除くハ策ハ可なりといふも、
いよいよ其機會
にあつても閣老の思わぬ事、
甚おハ思ふ事ありしに其
を聞て警歎す堪へず心志を碎きて探り
其意を聊其
得たる者ハ其擇る莫ありて名姓ハ
詳ハ爰ハ記す
其
程次ハ述るを以て考ふし

○西藩ハ大奸侯あり種々の秘計を旋らして
幕府を離る、人心を激し天下を動かす
其莫數十年外尊
攘を主張し内自己の欲を達せんとす
或ハ勇威を示し
或ハ巧言令色を以てし表裏反覆
神機妙算出沒不思議
凡眼を以て能見る莫ハ其

幕吏終に彼ら街中ニ陥リ彼ら役せしれ大害を醸さし到
まり水長の暴徒の如き天下の大義を知らず少量頑固
自災を醸したる悪行ハ悪むへし其愚ハ憐むへし奸候
ニ比すれば其罪猶輕かり闇老昏醉して時機を失し
宸怒ニ觸れて昏醉いまま醒めさ危き哉々天下累卵の
如し

七ヶ条の奏上果して行はせし時ニ奸候人を以て京師ニ
いんめて曰

幕府貴幣一に堪へず止むを得し以て此奏あり願くハ
之を納むよ自今以後ハ弊藩力を盡して

朝廷を神佐せん此他より事猶多し憚るもわれハ爰
は不記狂句狂画あり之を見て考察せよ

○御進奏可也為在よし是大概會たり必失ふ倍々其威武
・張弥益

公武偉一和の根を堅うして諸藩の説離間の災ちのらん
カ不且国事ニ於て時々動轉すへりち子の廟議確乎と定む
へきも其一挙の何ぞ鎖藩の如きは其眼の者小兒といふも
其不可なるを知る闇老不可を以て緝練家を説得ざるを得
ざるは是身を愛して恐懼を懐き詞を及ぶを能はざるを
たり

皇國の家危 徳川家の眞寔ニ関係するの大事件猶在す
ありしを身を殺して仁を為るの秋は色 廉耻を知るへて名
を後せよ止むへし 械會を失ふとれ

○前案のいふ如く 御進叟の夏の大機會ありて 閣老の
失ふ一之を付て又外一の大夫策あり
大樹公の法留守を大老姫路侯に命し 重大の
台命を下して委任せし 姫路侯何人そや 臣下なりか家
小身より続きたるなり 才徳聞ゆる夏あり 是庸人之
御留守中 不慮の憂あるの日 諸侯共人の指揮を受けて
服従すはものなりや 決して有るへかよ 抑當今の

御留守ハ

和宮まゝ一るをよハ 別る嚴みすし 是又
敵慮を安んずるの一端なり元より
御留守ハ 三藩の職 掌水公の任也 今水公 慎中且當時其
任に當らす 尾紀兩公の内任すし 姫路う如き 此大
任を授し 閣老の失職 至愚の魁たる一を笑ふ 二を
憂ふ 三を悲む 一 曰何を笑ふ 其愚を 笑ふ 曰何を
憂ふ 二 曰何を悲む 閣老愚にして 不知逆徒の脱走
せし者多し 府内の潜伏し 虚を乘して 暴徒せん 且
御留守中心 膝下に 憂ある 于時 姫路侯の 指揮に従ひ

奮戦尽力す所者あらんや 吾を以て憂ふ曰可をり悲しむ重
大の 仰留守三藩に任せも臣下の姫路に委任せり也三藩
の貴族を空位よし 幕成を自軽うさるや 閣老失政斯の如し徳川の天下久し
とて 吾を以て憂ふ

于時丁丑初夏日

二月十三日御答を奉り候

是

沙流半
由後任

沖之丞督

徳川吉田殿

徳川中納言殿

大目付殿

平外判官殿

平判官殿

沖海軍
沖之

日清案

沖海

日
沖後佐

沖佐

井仔押級
林系或於大捕

松平存安書

牧野河内書

内後若後書

稻垣佐治書

内後佐後書

松平丹波書

松平彈正太

内後若後書

有書

内後若後書

三月十日品日人出後相言的

本在日清海探平上行軍出押 沖試内捕獲

沖試一節而免不行軍言若

成山同于辰向日之長年

三月

八月十日

中進發

松平因所書

山法

坊山對馬書

八月十日

松平武敏備

澤井何月書

卷八雅樂以為

中進發山法書

作

有河屋書院酒雅樂記卷中列發及法書

卷八

中進發

中進發之舟山法
中進發

澤井雅樂記

右於

中進發

作

山法

中進發

澤井雅樂記

也夜是成上時之公也上書於

右之部中生記也九列之

八月

文治三年八月十日

大日本

毛利長房

中進發

山度善

大尾新母

永井志之丞

岡 保良寺

布衣灰田

村越平舟

津進夜之舟中書

津進夜之舟中書

津進夜之舟中書

右津進夜之舟中書

津進

外書奉

茶田日記

併南高四口為用

右津進夜之舟中書

山度善

津進夜之舟中書

小室系種次舟

津進夜之舟中書

牛込忠孝舟

右津進夜之舟中書

井伊掃部次

津進夜之舟中書

津進夜之舟中書

津進夜之舟中書

一月十日

一 三月廿五日 松平定房 大目付

今收中進及松平定房

今收中進及松平定房 中國宗九列名

向書上卷 人数毎名指了

右 松平定房

三月廿五日

三月廿五日

沖藤澄

紙子十卷

之收中進及松平定房 中國宗九列名

松平定房

日

日 卷

日 又云云 松平定房

右 松平定房 院道者 中列建

日

松平定房

日 又云云 松平定房

日

松平定房

日又云

日

日又云

日

日又云

日由... 軍... 用... 之... 也...

有... 院... 院... 院... 院... 院...

上... 山... 院...

神... 物... 卷...

如... 中... 言...

有... 院... 院... 院... 院... 院...

山... 院...

日... 月... 廿... 八...

河... 院... 院...

冲... 院... 院... 院... 院... 院...

任... 院... 院... 院... 院... 院...

出... 院... 院... 院... 院... 院...

本... 院... 院... 院... 院... 院...

外... 院... 院...

外... 院... 院...

茶... 院... 院...

右... 院... 院...

今... 院... 院... 院... 院...

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

一 外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

外書 外書 外書

御書

三月十日

同日

有口物由向... 本年由...

安 冲口

集身... 誠... 幸...

事... 物... 宜... 宜...

此... 心... 操... 抄... 方... 信... 一... 切... 宜...

御書... 候... 事...

御書

此... 及... 利... 大... 信... 公... 始... 為... 冲... 込... 日... 旨...

冲... 進... 及... 此... 物... 宜... 事... 中... 宜... 宜...

另... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜...

六月初日

外...

茶田日向

左... 此... 物... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜...

括... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜...

右... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜...

先... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜...

宜... 宜... 宜... 宜... 宜...

此... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜... 宜...

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a record, covering the right page of the manuscript.

Handwritten text at the bottom of the right page, possibly a signature or a date.

Handwritten text on the left side of the right page, possibly a name or a title.

Handwritten text on the left side of the right page, possibly a name or a title.

Handwritten text at the top of the left page, possibly a name or a title.

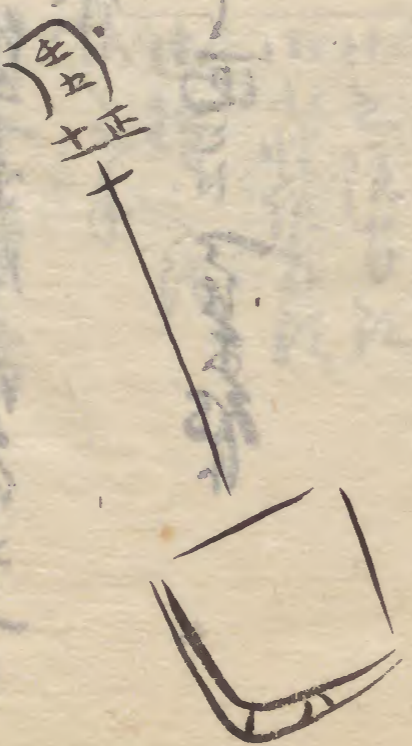
Handwritten text on the left side of the left page, possibly a name or a title.

Handwritten text on the left side of the left page, possibly a name or a title.

Handwritten text on the left side of the left page, possibly a name or a title.

Handwritten text on the left side of the left page, possibly a name or a title.

Handwritten text on the left side of the left page, possibly a name or a title.



Handwritten text on the left side of the left page, possibly a name or a title.

元治二年四月二日

大御所

津進奉書

津進奉書

津進奉書

津進奉書

津進奉書

右ノ邊ニ上ル由信一西ノノ

四月

張七右殿

津刺

陸軍奉書

津進奉書

右ノ邊

津進奉書

津進奉書

津進奉書

津進奉書

津進奉書

津進奉書

津進奉書

津進奉書

津進奉書

津進奉書

津進奉書

津進奉書

津進奉書

口五右十殿

口五右十殿

口五右十殿

入道三...

...

浪三...

...

日三...

...

日三...

日三...

浪三...

...

...

大地...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

浪二尺

口二寸五

口二寸五

口二寸五

口二寸五

師之記

五山先生傳記

市小性

中身市小性

市小性

市書定之傳記

真法師

新市書傳記

大市書傳記

市書定之傳記

大能傳記

傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

市書定之傳記

日九十月

日八十五

由武具子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

由吉子

日之...

日夕

日夕

日夕

日夕

日夕

日夕

日夕

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

由馬

日抄抄本

日十八
加新用令
三月令

由行他

口河

由作事由彼友

口河

由考佳

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

由考

11
11

山崎
山崎
山崎
山崎
山崎

信長書後抄後

大目録下

一 及 沖進後 沖谷津沖高目録後

沖谷城上条三沖谷引ノ事法信ノ事陣御
ノ用ノ事

信長書後抄ノ事 沖進後ノ事 沖谷津沖高目録ノ事

一 送中ノ後ノ事 家康ノ事 沖谷津ノ事 沖谷城ノ事

徳川氏ノ事 徳川氏ノ事 徳川氏ノ事 徳川氏ノ事
徳川氏ノ事 徳川氏ノ事 徳川氏ノ事 徳川氏ノ事

右ノ事ノ事 右ノ事ノ事 右ノ事ノ事 右ノ事ノ事
右ノ事ノ事 右ノ事ノ事 右ノ事ノ事 右ノ事ノ事

12月

五五

1820年 1月 1日

1820年 1月 1日

1820年 1月 1日

1820年 1月 1日

1820年 1月 1日

1820年 1月 1日

一 元治三乙之年は日吉路の家斗心医書

源平九条の針

其の度沙府内之夜之りは 師舟の如き事

力の中身より後達 沖流居る舟は夜

之をとりし子より後達 師舟の如き事

師舟の如き事 沖進夜舟の如

中より後達事しうはるる

喜山峯の如

大忌の如き事

岩城九条の如

戸田清路
坂本右平
沙舟内之儀了哉
沙舟内

一日半に月十九日

拙者後多事申上之儀
出之儀抄付方
此抄付方
禁家沙志
沙舟内之儀了哉
沙舟内

沙舟内之儀了哉
沙舟内
加賀中細云
即日沙舟内

上之儀抄付方
沙舟内
沙舟内

一 同年月日在沙白書院編類於中後

上 叔淳心大弼

羊年獲福之方頗分內改事向格列可在此後
之事務上亦有不意焉 陸方之成也山名每以採
事中之事亦不容易也 中務之成有之山乃行也
獲福之方亦依之 史相也 山名不出收酒上之
也 山名之方一也 山名之方

一 同年月日在沙白書院編類於中後

此及 沖進夜之舞 沙白之成也 山名每以採
事中之事亦不容易也 中務之成有之山乃行也
獲福之方亦依之 史相也 山名不出收酒上之
也 山名之方一也 山名之方

相成也 山名之方一也 山名之方

也 山名之方一也 山名之方

一 同年月日在沙白書院編類於中後

此及 沖進夜之舞 沙白之成也 山名每以採

事中之事亦不容易也 中務之成有之山乃行也
獲福之方亦依之 史相也 山名不出收酒上之
也 山名之方一也 山名之方

先規之也 山名之方一也 山名之方

沖進夜之舞 沙白之成也 山名每以採

事中之事亦不容易也 中務之成有之山乃行也
獲福之方亦依之 史相也 山名不出收酒上之
也 山名之方一也 山名之方

右の部向のふりかへるは

一日年四月十日

四月十日先 沖波合も佛も為後後事有
故上 沙粒成由青中 國ら出流法及り
之 師若年書相係反り 一 一 一 一
文化及教上物 一 一 一 一 一 一 一 一

一日日

今及 沖神志 沖波合 沖波合 沖波合
沙粒成 沖波合 沖波合 沖波合 長路
沖波合 沖波合 沖波合 沖波合 沖波合

沖波合 沖波合 沖波合 沖波合 沖波合

有

一日年四月十日

雅堂氏事 今及 沖波合 沖波合 沖波合
沖波合 沖波合 沖波合 沖波合 沖波合
沖波合 沖波合 沖波合 沖波合 沖波合
沖波合 沖波合 沖波合 沖波合 沖波合
沖波合 沖波合 沖波合 沖波合 沖波合
沖波合 沖波合 沖波合 沖波合 沖波合
沖波合 沖波合 沖波合 沖波合 沖波合

右の部向 沖波合 沖波合 沖波合 沖波合

江東

一 四年四月十日付至今日年号改元慶應
此 作少候 右身仕考と候所候申事付お成り申上

慶應

病氣本知少今日申上
年号改元候所候一 通雅業紙中候
後とらふ御立回事候と申上
一 〇〇〇〇〇〇事

一 慶應元乙丑年四月十日付至

津進敷候所付 道由津旅紙見分事
為津用拙と云送り申上
東海邊に御勢に御通に御通より
大津市史より伏見御方通に
姫路通御申上
此年申上御事

四月十九日

小俣移方舟

一 同日舟中日松平山麓を夜宿

沖進表出陣軍由信吉出立し而して多段
言ふ石抱場不し由軍收半減し人数運出信
了仕心分限分人救多る運出せり海人救
川信吉は信表出由信勢三排後出三由松
之改日刻し後中進せり未と果
右に越沖進表出陣軍由信吉出立し而して
多段の表向し海人宿割揚し由り舟了
了信了

一 慶應元年丑年四月 松平由秀と及尾由家と

出立して是書す

松平 隆貞

沖進表出陣軍由信吉出立し而して

多段の表向し海人宿割揚し由り舟了
了信了

四月廿日お終り

南 越 天 渡 号

沖進表出陣軍由信吉出立し而して
此節 全舟は松平の御旗

前口

平月 冲進發之序 拙志之所之別号修

光 冲進發之序

権隈保固修 冲進發之別永保九年

天正十八年 五反之祖中務備忠務治馬

士多於余入山附也 冲進發之序

冲進發之序 冲進發之序

冲進發之序 冲進發之序

冲進發之序 冲進發之序

之序 冲進發之序

冲進發之序 冲進發之序

冲進發之序 冲進發之序

冲進發之序 冲進發之序

冲進發之序 冲進發之序

冲進發之序 冲進發之序

冲進發之序 冲進發之序

冲進發之序 冲進發之序

冲進發之序 冲進發之序

冲進發之序 冲進發之序

六月廿七日附札

書面之通

昨日見之

印字

一冊了

昨日通下之書本指之書本場中一

山信之由目分下之書本指之書本場中一

山信之由目分下之書本指之書本場中一

山信之由目分下之書本指之書本場中一

山信之由目分下之書本指之書本場中一

山信之由目分下之書本指之書本場中一

山信之由目分下之書本指之書本場中一

一日年月日沙口人出函

先年与沙口人出函一

新善所新取書本入用之成之別名

之後リあるも如園之書本場中入書

お掛一曰新取之書本場中入書

沙口人出函一

一日沙口人出函一

是

横田馬場先社回念之新市馬本

活くあるも如園之書本場中入書

手紙下沖田の筆を用ひ又本年通判の
西へも本年沖田の筆を用ひ若くは
一の筆を用ひ

一日年月日 中書省の筆を用ひ

沖田の筆を用ひ由御の筆法向の筆
一の筆を用ひ若くは本年通判の筆
を用ひ又本年通判の筆を用ひ
一の筆を用ひ

右の通り通判の筆を用ひ
一の筆を用ひ

一日年月日 沖田の筆を用ひ

細川越中守

達

此の通り通判の筆を用ひ
一の筆を用ひ

別紙

足利

細川越中守

世及毛利大抵父より為出候之旨書

一 沖進費は控合は 御料下より申上り候有

一 御料下より申上り候有 御料下より申上り候有

一 御料下より申上り候有

一 右月本口御川越中守御料下より申上り候有

一 沙及 沖進費は御料下より申上り候有

一 御料下より申上り候有 御料下より申上り候有

一 御料下より申上り候有

一 沖軍令は後志津御陣に合致候事付入候事

一 御料下より申上り候有 御料下より申上り候有

一 御料下より申上り候有

一 沖進費は上り候事御料下より申上り候有

一 御料下より申上り候有 御料下より申上り候有

一 御料下より申上り候有 御料下より申上り候有

一 御料下より申上り候有

一 御料下より申上り候有 御料下より申上り候有

一 御料下より申上り候有 御料下より申上り候有

一 御料下より申上り候有 御料下より申上り候有

一 御料下より申上り候有

一 出陣の公取口より後沙津の北より人取の金
りし中此年沙津より通津我孫内より取
平常より取らずに取らるるより取らるる
右に候より取らずに取らるるより取らるる
中より取らずに取らるるより取らるる

伊川我孫内

一 月未言 此地は伊川

一 月未言 此地は伊川

松平陸より

一 月未言 此地は伊川

一 月未言 此地は伊川

伊川我孫内

一 月未言 此地は伊川

一 月未言 此地は伊川

伊川我孫内

一 月未言 此地は伊川

沖進夜は松平が
先づ及手紙

加茂遠く
昭板片紙

右日又云

松平安房守

連一見

毛利信治は
宛先長崎

沖進夜は松平が
先づ及手紙

一 沖進夜は松平が
先づ及手紙

其後方招極
進ては
一 松平相
及手紙

大目付

今度沖進夜は松平が
先づ及手紙

一 沖平日
目録

目録

高相日
沖進夜は松平が
先づ及手紙

沖波の浪はきつてつたての波も陣沙待候
後波の浪はつたての波も陣沙待候
沖波の浪はきつてつたての波も陣沙待候
後波の浪はつたての波も陣沙待候

三日廿日

平尾積之助

松平忠房の宛

去早九松平越前守の宛
沖波の浪はきつてつたての波も陣沙待候
後波の浪はつたての波も陣沙待候

副将の宛はつたての波も陣沙待候
沖波の浪はきつてつたての波も陣沙待候
後波の浪はつたての波も陣沙待候

一日年月廿五日

今般沖波の浪はきつてつたての波も陣沙待候
後波の浪はつたての波も陣沙待候

沖波の浪はきつてつたての波も陣沙待候
後波の浪はつたての波も陣沙待候
沖波の浪はきつてつたての波も陣沙待候
後波の浪はつたての波も陣沙待候

以沙洲礼以作後山後一ありと云はれ
口にれり地を今及沙洲に傳へ後一ありと云
入教の建上京山に傳へたはれと云はれ
之建上人教の地を遠路付り後建上人
十り中と云はれ人教の地を不りと云はれ
沙洲に傳へる地を傳へて之を山に傳へ
之成人教の地を今及沙洲に傳へ
之を傳へる地を傳へて之を山に傳へ
相傳へる地を傳へて之を山に傳へ
近來の地を傳へる地を傳へて之を山に傳へ

有伝心庭様を之に以て才物と云はれ
沙洲に傳へる地を傳へて之を山に傳へ
之を傳へる地を傳へて之を山に傳へ
之を傳へる地を傳へて之を山に傳へ
之を傳へる地を傳へて之を山に傳へ
之を傳へる地を傳へて之を山に傳へ
之を傳へる地を傳へて之を山に傳へ
之を傳へる地を傳へて之を山に傳へ

加賀中細高目
加賀分十人守

加賀中細高目
今及上京山に傳へる地を傳へて之を山に傳へ

沙路... 乃山... 乃山... 乃山...

四月

沙書夜 月

一再... 沙路... 乃山... 乃山...

一 日年月... 乃山... 乃山...

乃山... 乃山... 乃山... 乃山...

乃山... 乃山... 乃山... 乃山...

加賀中納言

加賀公...

乃山... 乃山... 乃山... 乃山...

四上

加賀中納言
加賀守

一日年月日

初夜今夜以清奉者如務
御身心主御出管
御身心主御出管
御身心主御出管

一日年月日

津恒織中

一日年月日

井伊掃部頭
二部上

一日年月日

山本蓮平

列傳

井伊掃部頭
二部上
信樂守
山本蓮平

一日十月 津進夜 比也山 徳山 日向月 育
人馬徒之云々 花種中 東海 通り
方 徳山 育 本月 秋 夜 津進 以後 日 果 之
比也 月 徳山 家 事 通り 徳山 之 用 育 亦
自 之 送 去 百 連 徳山 比也 徳山 徳山 徳山 徳山
通り 徳山 又 人 徳山 徳山 徳山 通り 徳山 徳山
徳山 通り 徳山 徳山 徳山 徳山 徳山 徳山 徳山 徳山

一日 羊 十月 十日 津進 夜 比也山 育
沖 徳山 津進 夜 比也山 徳山 育 比也山 育 比也山 育
比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育

着 用 西 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育
西 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育
一日 河 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育

人 夜 津進 夜 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育
比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育
比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育
比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育
比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育 比也山 育

比也山 育 比也山 育

一 在... 事... 改... 一 在... 軍... 次... 右... 西... 而...

一 日... 一 一... 一 一... 一 一... 一 一...

つとむるにさうりて

一 四年四月十日 津進 松平信長 宛

一 四月十日 津進 松平信長 宛

一 附

右 通 津進 松平信長 宛

一 四年四月十日 津進 松平信長 宛

一 津進 松平信長 宛

一 津進 松平信長 宛

一 四年四月十日 津進 松平信長 宛

一 津進 松平信長 宛

一 津進 松平信長 宛

一 四年四月十日 津進 松平信長 宛

一 津進 松平信長 宛

一 四年四月十日 津進 松平信長 宛

一 津進 松平信長 宛

一 附

一 津進 松平信長 宛

一 津進 松平信長 宛

一 津進 松平信長 宛

之書に事ありしに後、
トの九十一箇一層中、
此の九十一箇一層中、

沖津波一節 沖津波系 沖津波系
少利候し候中、
沖津波一節 沖津波系 沖津波系

一 沖津波一節 沖津波系 沖津波系
いふに、
あふも、

一日日河原豊後
沖津波一節 沖津波系 沖津波系

紀伊沖津波一節
沖津波一節 沖津波系 沖津波系

沖津波一節 沖津波系 沖津波系
道中、
旅り、
あふも、
あふも、

了以終

此是古色院布一而こて名日布

一日口沖日布

一沖進者沖日布日具場所

一境中門日

日例

日海 日語

日洋代大布

日物子

日語 日流

日物子

沖吉園布日
二重格布日

日可

日語 日極致後

日物子

外 日物

大日 日物

兩 日物

布 日物 布亦布

日 日物

奇 日物

布 日物 布亦

布 日物 布亦

中位切布日
日物

若雨一舟中

大徳間也一箇

大徳下松海

後一乃

日可少一乃者

大徳下
大徳間
名得方 かん一

大徳間

返一語

日一拾

後一血

日一婦子

平一乃一採一越一語

日一婦子

大徳書院

友一書院

大徳書院

一日本國少一乃極私

日一婦子

六月十日 舟進發了 舟中 沙道 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

多段敷多方一法性一多中初段と中七と一
吾同白川と家概段中才一其まらふと七と
統て方一久統と及秋重一及段
公段一建少段と一と及内段
一府段中一通と一と及中勿初中院
一内と七更一不果中向方一と及中七
中一初才一と中初中一と及中一
無段中一と及中一内段一と中一
一と一不段と一初段一と及中一
一と一不段と一初段一と及中一

心段中一と及中一と及中一と上
中中才一と及中一と及中一と
社人九一と及中一と及中一と
陣中一と及中一と及中一と
中伯國八列一と及中一と及中一と
と及中一と及中一と及中一と
後中一と及中一と及中一と
中保一と及中一と及中一と
大十沙光中一と及中一と及中一と
中道一と及中一と及中一と

沙...の...
...

七月

心受書

今收花 沖進及比候...
...

この...の...
...

一 〇 移上押下を平不立のうきをよし一 〇 年平のり
不白のむ中流の事平の遠をくねまのり
中通一 〇 年平

壬午月

列候内流の地路の死平の中まのり
世及の候下通一 〇 年平揚舟の事平
沖恩流平果の一 〇 年平一 〇 年平上平の事
古一 〇 年平の事平の事平の事平
沖舟の事平の事平の事平
一 〇 年平の事平の事平の事平

白の事平の事平の事平の事平
一 〇 年平の事平の事平の事平

一 〇 年平の事平の事平の事平
地路の事平の事平の事平
一 〇 年平の事平の事平の事平
一 〇 年平の事平の事平の事平

一 〇 年平の事平の事平の事平
一 〇 年平の事平の事平の事平
一 〇 年平の事平の事平の事平

